



陽 捷行氏からのご意見

食育

- 教育は大変重要で、まず志をたてることを教えていただきたいです。こういう技術があるとか、こうすればうまくいくという狭い話にすべきではありません。現在の社会は大きな経済という円の中に、環境とか教育とか小さな円がある構造になっています。教育の場面では、志をもつ大きな教育という円の中に経済という小さな円がある、との思いで、教育にあたっていただきたいものです。
- 茶業振興法では、健康と文化が重要と書かれています。この健康と文化を元にして、生産者、消費者、伊藤園、行政、研究者の会合を持つべきでしょう。教育現場でもこの考え方は重要だと思います。



陽 捷行氏
北里大学副学長

医食同源

- 私は、農業環境技術研究所で農業と環境を結びつける研究をしていました。今は環境を通した農と健康の連携について研究しています。本日のお話にも、環境を通した農医連携の概念が含まれています。英語で言えば、“Integration between agriculture and medicine through environment”でしょうか。農学と環境と医学が分離してはいけないということです。北里大学のホームページでは、農医連携の情報を流しています。農医連携の様々なシンポジウムをオンデマンドで見ることができます。
- 御社の経営において、農と健康を統合することが、今後必要だと考えます。御社のホームページには健康や環境の考え方を掲げ、また健康に関連する組織を立ち上げ、お茶が健康に良いということをもっと宣伝する必要があると思います。ぜひ北里大学のホームページにある農医連携の資料をご覧ください。

環境 等

- 今回の3.11の大震災で我々は環境が破壊されれば、農業も健康も失われることを知りました。環境の重要性が分かったのです。お茶を製品としてだけでなく、環境資源として捉えれば、また違った視点でものが見えてくるかもしれません。
- また、放射能問題では、風評は我々が作っています。よくよくみんなで科学的知見を持って語るようなシステムを作らない限り、風評はなくなりません。
- 今では農水省の色々な取組みには、生産者、消費者、政府、研究者が集まって議論しています。今日の参加者にはおられません。生産者と消費者も含めた議論を行っていきべきと考えます。

伊藤園の対応

- 中央研究所は、美味しさと健康に関する研究を進めています。緑茶を中心とする当社の製品がいかに健康維持に有用性があるかを試験で確認し、学会・論文で発表するとともに当社のホームページでリリースしています。また緑茶セミナーを開催し、緑茶の健康価値などの研究成果を発表しました。これからも、健康に関する情報を皆様に提供していきたいと考えています。
(堤坂・中央研究所長)
- 茶業振興法が成立しましたが、茶業と茶文化、茶の輸出まで記載してあります。我々も企業の立場からこのような体系的な基本方針を頭に入れておきたいと思います。また、CSRの展開としては、今後は一般消費者の方をお呼びしたり、広がりのある方向で考えています。製品開発コンセプトには、『自然・健康・安全・良いデザイン・おいしい』と記載し健康も重要要素としています。
(笹谷)
- 新産地事業は耕作放棄地を活用していますが、農家の皆さんに利益がなければ事業は継続しません。農家など地元や地域の利益を考え、工夫しながら推進しています。
(橋本)